

ごあいさつ



宇城・上益城ブロック大会
実行委員長 門岡 啓介

第64回熊本県図画工作・美術教育研究大会（宇城・上益城ブロック）がWEB開催で
きますことを心から感謝申し上げます。本来であれば、本研究大会は令和3年度に実施の
予定でありましたが、皆様もご承知の通りコロナ禍で、1年スライドしての開催となりました。
また、今回は例年通りの集合研修も検討しましたが、児童生徒や参加者の安全を考
え本年度もWEB開催としました。

宇城・上益城ブロックでの開催は、平成27年度第58回大会に続いて2度目となりま
す。今回は「つなぐ・つながる造形教育」のメインテーマのもと、サブテーマとして「ど
の子も楽しく『見つめ・感じ・つくりだす』図工・美術のUD授業づくり」を掲げ、以下
の研究仮説を設定し、だれもが創造活動の楽しさを味わうことのできる授業づくりにつ
いて研究を深めました。

児童生徒の発達段階や生活経験の違い等による知識・技能、関心・意欲の差を踏まえ、
ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを工夫することにより、すべての児
童生徒が「つくりだす喜び」を味わい、楽しく造形活動に取り組み、自らの完成を働
かせながら、対象を見つめたり、造形活動のよさを感じ取ったり、創造的な表現を工
夫したりすることができるであろう。

今回、これを引き継ぎ、また深化させるために、サブテーマに「子供たちの『やってみ
たい!』を高める授業づくりをもとめて」を設定して取り組んでまいりました。

図工・美術に限らず、国語や算数・数学、体育や音楽等についても得意、不得意と感じ
ている児童生徒はたくさんいるでしょう。そこで本研究では、児童生徒が得意、不得意と
は感じつつも、造形活動に積極的に取り組み、完成した作品に対して自分なりに満足と感じ
ることができるような授業展開、題材の開発に焦点を当て、次のような研究仮説を掲げ
て進めてきました。

児童生徒が安心して授業に取り組むことができるような、題材と授業展開の工夫を行
えば、児童生徒は発想や構想の能力、技能及び作品の見方を身に付け、自信をもって
意欲的に造形活動に取り組むであろう。

導入を工夫し、発問の工夫、参考作品の提示の仕方を工夫するとともに、児童生徒が作
業中に困ったとき、教師がどのようにフォローすれば、「やってみたい!」という気持ち
を高められるのかを追究しました。そして研究の視点を明らかにし次のように設定しました。

- (1) 児童生徒の意欲を高める指導・支援の工夫
 - 児童生徒の実態に応じた題材の工夫
 - 見通しをもつことができる題材構成の工夫
 - 分かりやすい授業展開の工夫
- (2) 児童生徒の思いが自由に表現できる学習環境づくり
 - お互いのよさを認め合う関係づくり
 - 児童生徒の多様性に応じた学習環境づくり

そして、それに沿って指導支援を行うことで児童生徒の意欲の高まりを確認していきま
した。また教師も、完成した作品や児童生徒の発言を記録し、これまでの指導より一歩で
も半歩でも質の高まりのあるものにできたのか振り返りました。本大会でのそれぞれの授
業報告動画及び実践報告見ていただき、ご意見ご感想等をいただければ今後の研究がさら
に深まるものと思います。

今回、1単位時間の授業だけではなく、できる限り一題材を通しての指導支援の方法を
示し、それによってどのような作品、意見が生み出されたのかという形で編集しています。
これはWEB開催の利点と宇城・上益城ブロックでは考えています。その様子も見ていた
だきたいと思います。

最後になりましたが、本研究大会を開催するにあたり、ご協力、ご支援をいただきました
関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。また、本研究大会に参加された先生方の指
導力向上につながり、これからの図画工作・美術教育が益々発展することを祈念申し上げ、
大会実行委員長のご挨拶といたします。